



TITLE:

卵巣嚢腫により尿閉をきたした1例

AUTHOR(S):

松尾, 栄之進; 鈴, 博司; 田川, 博之

CITATION:

松尾, 栄之進 ...[et al]. 卵巣嚢腫により尿閉をきたした1例. 泌尿器科紀要
1998, 44(4): 293-295

ISSUE DATE:

1998-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/116156>

RIGHT:

卵巣嚢腫により尿閉をきたした1例

松尾ひふ泌尿器科医院 (院長: 松尾栄之進)

松 尾 栄 之 進

掖済会長崎病院泌尿器科 (部長: 鈴木博司)

鈴 木 博 司

長崎市立市民病院産婦人科 (部長: 田川博之)

田 川 博 之

A CASE OF OVARIAN CYST PRESENTING AS URINARY RETENTION

Einoshin MATSUO

From the Matsuo Clinic for Dermatology and Urology

Hiroshi SUZU

From the Department of Urology, Ekisaikai Nagasaki Hospital

Hiroyuki TAGAWA

From the Department of Obstetric and Gynecology, Nagasaki Municipal Hospital

A 54-year-old woman presented with repeated episodes of urinary retention during an approximately 7-month period of dysuria. Computerized tomography scan revealed a right ovarian cyst and a small uterine myoma. At operation, the ovarian cyst was deeply incarcerated into the pouch of Douglas displacing the bladder neck and the uterine cervix in the anterocephalad direction. Histological diagnosis of the resected cyst was benign mucinous cystadenoma. This is the 5th reported case of urinary retention caused by ovarian cyst in the Japanese literature.

(Acta Urol. Jpn. 44 : 293-295, 1998)

Key words: Urinary retention, Ovarian cyst

緒 言

女性では婦人科的疾患によって起こる尿閉は稀である。当院では卵巣嚢腫によって尿閉をきたした症例を経験したので若干の知見を加えて報告する。

症 例

患者: 54歳

主訴: 尿閉

家族歴 既往歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1997年1月頃より尿勢減弱, 残尿感あり。6月13日, 尿閉となるため某医にて導尿 (800 ml) を受けた。その後, 排尿力は良好となるも7月12日, 再び尿閉となるため同医により再度導尿 (800 ml) を受け, 7月15日当院を紹介された。

現症: 膀胱部の膨隆はないが, やや強い抵抗, 圧痛あり。

尿, 血液生化学検査: 異常なし。

画像診断: 導尿後の膀胱部エコーにて骨盆腔内に嚢胞性病変を認む。排泄性膀胱造影にて上部よりの膀胱圧排像を認む。

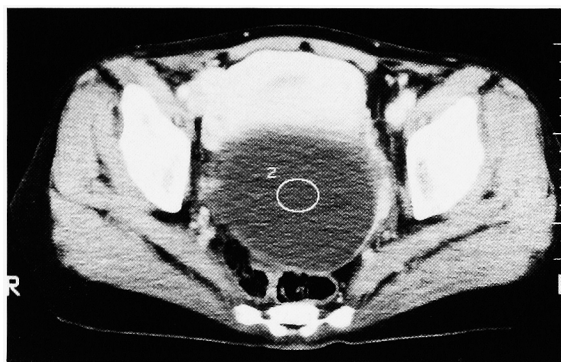


Fig. 1. Pelvic CT shows that the ovarian cyst occupied the pouch of Douglas, leading to the exclusion of bladder from the posterior side.

膀胱鏡: 挿入に抵抗ないが, 膀胱三角部は後三角部にかけ小手拳大に膨隆し, 両側尿管口は外側に偏位す

尿流量試験: 排尿量は 126 ml であるが MFR は 5 ml/s, AFR は 2.4 ml/s と排尿機能は著明に低下していた。

以上より骨盆腔内の嚢胞性病変による排尿障害と考

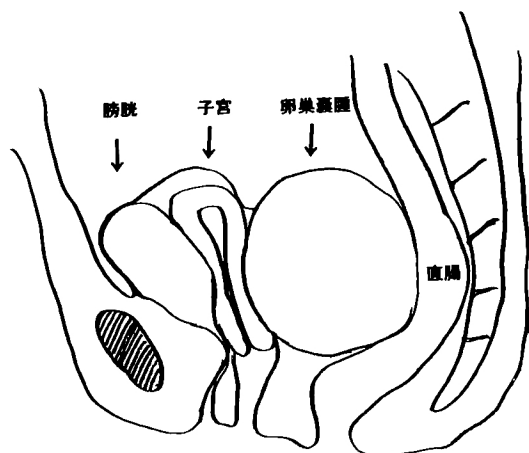


Fig. 2. Schema during the operation shows that exclusions of the uterine cervix and the bladder neck were caused by the ovarian cyst incarcerated in the pouch of Douglas.

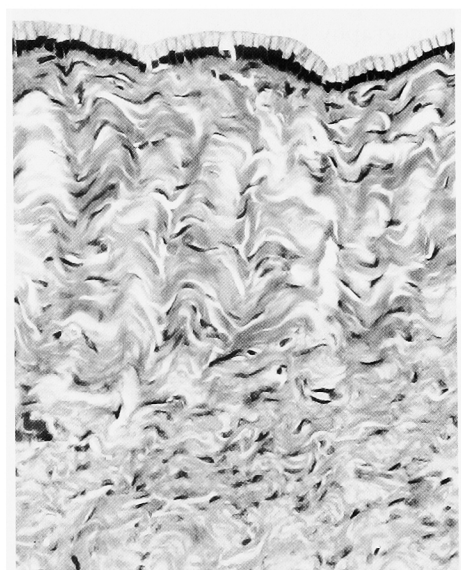


Fig. 3. Histology of mucinous cystadenoma of the ovary. The ovarian cyst is lined by a single layer of mucus-secreting columnar epithelium with basal nuclei. Papillary proliferation and stratification of epithelium are not seen ($\times 40$).

え、7月15日長崎市民病院産婦人科に紹介し7月28日入院となった。同科外来での骨盤部エコー・CTにて小さい子宮筋腫を伴った右卵巢嚢腫と診断され、7月31日、腰麻下で右卵巢嚢腫摘出術および子宮筋腫核出術を受けた。手術所見では図のように右卵巢は小児頭大の嚢腫で癒着はないもののダグラス窩に深く嵌頓していた。このため子宮頸部は膀胱頸部後方に強く圧排されていた。卵巢嚢腫を摘出した後、子宮底部に認め

られた示指頭大の筋腫も核出した。卵巢嚢腫の内容液は粘稠で淡黄色を呈し750 mlあった。

組織診断：摘出した卵巢は mucinous cystadenoma で、全体に嚢胞性病変が見られ、内面は一層の子宮頸管上皮に似た円柱上皮に覆われているが悪性所見はなかった。

術後経過：排尿障害は消失し、8月18日退院した。9月20日、当院で再度行った尿流量試験では排尿量は208 ml で MFR は 11 ml/s, AFR は 4.8 ml/s と改善していたが、自宅ではもっと尿勢があるとのことであった。

考 察

女性の尿閉は稀であるが、手術後や分娩を除けば脳脊髄末梢神経障害による神経因性膀胱や尿路、消化管、子宮脱を含む女性性器など骨盤腔内の病変およびヒステリーなどの精神疾患によって発生する。女性性器の骨盤腔内の腫瘍性病変として久末¹⁾は子宮筋腫による尿閉を13例報告しているが、卵巢嚢腫による尿閉はさらに少なく、自験例を含めわずかに5例の報告を認めるに過ぎない。本邦での第1例目の報告として岡²⁾60歳で左側の類上皮嚢腫を合併した右卵巢嚢腫の1例を示しているが、福田³⁾10歳の類上皮嚢腫を報告している。国島⁴⁾、田畑⁵⁾および自験例はいずれも嚢腫のみであった。

Doran⁶⁾は女性の尿閉についてその頻度と病因について言及しているが、卵巢嚢腫による尿閉はわずか1例に過ぎなかった。子宮筋腫や卵巢嚢腫のように婦人科的疾患にもとづく骨盤内腫瘍が原因となる尿閉の報告例が著しく少ないのは、尿閉という泌尿器科的症状の原因が婦人科的疾患という、いわゆる境界領域の疾患であり、その病変が比較的良性であることが多く、これを摘出すれば尿閉はほとんど消失し、退院後患者は受診しなくなるからであろう。したがって久末が指摘するように子宮筋腫を含め卵巢嚢腫による排尿障害の症例の実数はおそらくこれに数倍するものと推測される。

Ward⁷⁾は骨盤腔内の婦人科的疾患による尿閉の原因として腫瘍が膀胱頸部や尿道圧迫したことに加え、膀胱底部の挙上による尿道の延長と変位を掲げているが、柳沢⁸⁾は、結核性子宮留膿腫による尿閉例の報告の中で腫瘍が直接膀胱頸部を圧迫し排尿開始時に同部の開大と漏斗形成を阻害したために生じたもので尿道延長のためではないとしている。

Kingsnorth⁹⁾は子宮摘出後の卵巢嚢腫により尿閉をきたした2例を報告しており、その原因は卵巢嚢腫が直接膀胱頸部と尿道を圧迫、伸展したために生じたとしている。この2例は子宮摘出後、卵巢嚢腫がダグラス窩に嵌頓し癒着したまま増大したことが要因の1

つと考えられる。

本症例ではダグラス窩に嵌頓した卵巢嚢腫が子宮頸部を押し上げ、これが膀胱頸部を圧迫して尿閉を惹起したものと考えられた。

結 語

卵巢嚢腫による尿閉の1例を報告したが、この症例は文献的に本邦第5例目である。

文 献

- 1) 久末伸一, 丸田 浩, 柳瀬雅裕, ほか: 尿閉をきたした子宮筋腫. 臨泌 **51**: 575-577, 1997
- 2) 岡 直友, 菅野英男: 卵巢嚢腫の膀胱頸部圧迫による尿閉の1例. 日泌尿会誌 **53**: 559, 1962
- 3) 福田 透, 塚原嘉治, 上島大一: 尿閉を主訴とする少女にみられた卵巢皮嚢胞腫. 産婦の世界 **31**: 増刊, 76-77, 1979
- 4) 国島起嗣夫: 巨大卵巢嚢腫による尿閉. 日泌尿会誌 **59**: 535, 1968
- 5) 田畑雅章, 松浦敏章, 橋本昌樹, ほか: 尿閉を主訴とした巨大卵巢嚢腫の1例. 臨泌 **36**: 1077-1079, 1982
- 6) Doran J and Roberts M: Acute urinary retention in the female. Br J Urol **47**: 793-796, 1976
- 7) Ward JN, Lavengood RW and Draper JW: Pseudobladder neck syndrome in woman. J Urol **99**: 65-68, 1968
- 8) 柳沢良三, 井上滋彦, 板倉宏尚, ほか: 結核性子宮留嚢腫による尿閉の1例. 日泌尿会誌 **83**: 690-693, 1992
- 9) Kingsnorth AN: Urinary retention due to ovarian cyst. Br J Urol **56**: 439-440, 1984

(Received on October 13, 1997)

(Accepted on February 4, 1998)